あとがき

一九九三年、五、六月。僕は初めての中国大陸を二か月間にわたって旅行した。さしたる気負いもなく、これといった目的もなく、すがれるツテといってはガイドブック一冊きり。旅というよりもむしろ散歩という言葉が、僕の中国旅行にはピッタリくる。

さて、中国散歩の行程もほぼ四分の一をたどりなおして、僕はいま旅行記の中の次の言葉を反芻している。

「僕はたぶん中国を旅しながら、旅を捜すことになるのだろう」

旅という言葉を、詩や人生という言葉に置き換えてみるほど、僕は物事に達観してはいないけれども、たぶんそうなのだと思う。旅とはたぶんその結果から反照されて価値を与えられるものではなく、それ自体が価値を生成するプロセスなのだ。

僕はあなたに大きな未知を伝達することはできない。だが本当のところは、未知自体にはさしたる価値はなく、プロセスこそが価値であり、伝えるべき全てなのだと僕は確信している。

なお本文中、中国語を用いている所で、ある場合には中国で使われている簡体字を用い、ある場合には日本語の漢字を用いている。中国語に忠実であるよりも、分かりやすいことを優先した。

一九九四年二月二四日